

# 労働基準部長による年末建設工事現場公開パトロールを実施いたしました



神奈川県労働局労働基準部安全課・健康課

本年は、建設業における死傷労働災害発生件数は昨年並みであるものの、死亡労働災害が大幅に増加しており、すでに昨年の14人を超える18人を数えるに至っています。例年、県内で発生した死亡災害の約半数は「墜落・転落」災害が占めていましたが、本年は「崩壊・倒壊」「感電」「交通事故」など多様化しています。また「ヘルメット未着用」「クレーンつり荷下への立ち入り」「ライフジャケット未着用」「高圧電線への不用意な接近」など作業員による「身を守るための基本事項」の遵守がおろそかになっていることが懸念される状況となっています。そこで、令和3年12月3日（金）午前、建設業労働災害防止協会神奈川支部と合同で、死亡災害の撲滅及び年末年始の労働災害防止意識高揚を目的とした建設工事現場の公開パトロールを実施いたしました。



パトロール工事現場の建物の一部

パトロール対象は、横浜市戸塚区にて鹿島建設株式会社が元請として施工する「中外ライフサイエンスパーク横浜新築工事」現場で、広大な敷地の中、2,000人を超える作業員が常駐し、作業を行っています。大手製薬会社の大規模研究開発拠点となる予定の大規模建設工事現場となっています。

当日は、工事施工中の研究棟内部や建物の外回りにおいて、高所作業における墜落防止措置、安全な作業通路の確保維持、ヘルメットやフルハーネス型安全帯など保護具着用・使用状況及び建設機械との接触防止等、総合的な安全衛生管理状況を確認いたしました。



現場を巡視する労働基準部長



現場説明を受ける黒田支部長と部長



パトロール巡視後に講評する労働基準部長

体温チェックを受け手指消毒後、現場に入場いたしました。土砂運搬のためダンプカーが数多く入場する現場ですが、車道と歩道をわかりやすくバリケードで隔て、場内歩行者の安全確保に努めており、また、屋内では、脚立より安全な「可搬式作業台」を多用して作業を進めていました。巡視後、労働基準部長は「神奈川県内では建設業において死亡災害が増加している。安全管理はもとより、関係作業員の健康管理にも十分配慮していただき、特に工期切迫等による過重労働の発生抑止をお願いする。また、新型コロナウイルス感染症対策については申し分なく、この状況を継続していただきたい。」と当該建設工事現場の安全衛生管理担当各位に要請いたしました。

建災防スローガン「無事故の歳末 明るい正月」